

青森県内における新規就農者の取組

令和2年度



令和3年3月
東北農政局青森県拠点

担い手の減少や高齢化が進む中で、我が国の農業を持続可能なものにしていくためには、新規就農者の確保・育成が極めて重要であると考えております。

このため、東北農政局青森県拠点では、県内各地で活躍されている若手農業者の方や、青森県に新たな就農の場を求め移住された方々にスポットをあて、「青森県内における新規就農者の取組」を作成しました。

本資料では、それぞれの地域で活躍し次代の農業を担う若い力の取組を紹介するとともに、就農する際の課題やその解決方法、新規就農を考えている方へのアドバイス等についてまとめています。

就農を考えられている皆様の参考となり、農業のさらなる発展の一助となれば幸いです。

令和3年3月
東北農政局青森県拠点
地方参事官 佐藤 文芳



【留意事項】

- 掲載情報は取材時点のものです。
- 紹介している取組は、関係者の皆様のご了解をいただき掲載しています。
- 無断転載は禁止しています。

目 次

- 田嶋 瑞穂さん（七戸町） 2
「パートナーシップとワーク・ライフ・バランスの実現を目指して」
- なべや農園 鍋谷 佳都さん（むつ市） 3
「手探りの中で見えたかすかな光明」
- 小田桐 拓也さん（弘前市） 4
「経営基盤をしっかり作り、次のステップへ」
- 斉藤 圭太さん（五所川原市） 5
「情報を集めて成果に繋げる」
- 岩谷 大祐さん（深浦町） 6
「郷里の担い手となって農地を守る」
- 福山 明子さん（新郷村） 7
「農業で始める自分時間」
- たざわ農園 田澤 一月さん（弘前市） 8
「りんごが繋ぐ地域コミュニティ」
- 宮崎 季子さん（階上町） 9
「子供と夢を育てる農業女子」
- 田村 大和さん（八戸市） 10
「農業に対するイメージを変えたい！」
- 田中 幸輝さん（八戸市） 11
「好きであることは原動力である」
- 上沢 洋貴さん（田子町） 12
「夢に向かってチャレンジし続ける」
- 高橋 直樹さん（つがる市） 13
「最後までブレずに自分で考えてやりぬく」

田嶋瑞穂さん（39歳）（七戸町）

H30.6 親元就農

- 出身地・・・青森県七戸町
- 経営形態・・・家族経営体（農業従事者1名）
- 経営面積・・・32a（露地20a 施設12a（ハウス3棟））
- 作付品目・・・トマト、ニンニク



就農するまで

- きっかけ
民間企業で働いていたが、父親が病で倒れたのを機に就農を決意した。
いずれ跡を継がなくてはいけないと考えてはいたが、まさかこんなに早く就農することになるとは思ってもいなかった。
- 就農に当たっての課題
突然、就農機会が訪れたので、何の準備もしていなかったが、その準備をしていなかったということが課題だったように思う。
- 活用した就農支援策等
農業次世代人材投資事業
新規就農者定着化支援事業費補助金（町）
野菜生産力向上対策事業（町）



就農してから

- 取組
今は一人なので現状の規模を維持するので精一杯だが、トマトをメインに栽培していき、将来的には規模拡大をして自分で育てたトマトを使った加工品の開発をしたい。
いずれは妻も農業経営に携わってもらい、家族みんなで農業に取り組みたいと考えている。
- 課題
規模拡大を考えると、人手不足にどのように対応するのが課題。人材派遣をお願いしてもいつも同じ人に来てもらえる訳ではなく、農業未経験者だと基本から説明しなくてはいけないので、手間と時間がかかってしまう。近所のお母さん方にお子さんを保育園へ預けている時間などを活用して、ローテーションで好きな時間に農作業を手伝ってもらえるような仕組みを構築したい。
- 課題の解決方法
まだ駆け出しなのでわからないことだらけ。普及指導員に助言をいただき、日々勉強の毎日。困ったときに相談に乗っていただけるので非常に心強い。
将来的には、女性の活躍に対する補助金等を活用して、子育てと仕事の両立に繋がるような働きやすい環境を整え、地域一体となって農業に取り組むことで地域の活性化に繋がっていききたい。



就農を考えている皆様へ

私は、親元就農であるため農地も農業機械も技術も継承でき、とても恵まれている環境に置かれていると感じてる。一から農業を始めようという方は、人とは違う新しいことにチャレンジしたい気持ちが強いかもしれないが、一端、立ち止まり、まずは基本を身につけてから、自分がどれだけやれるのかを知ったうえで新しいことに取り組んでいただくことをお勧めする。

なべや農園 鍋谷佳都さん（24歳）（むつ市）

H31.3 親元就農

- 出身地・・・青森県むつ市
- 経営形態・・・家族経営体（農業従事者2名）
- 経営面積・・・4.6a
- 作付品目・・・いちご（赤い妖精、すずあかね）



就農するまで

○きっかけ

県外の企業で働いていたが、長男であったためいずれは地元に戻ろうと考えていたところ、地元の冷涼な気候を活かして生産された夏秋いちごが脚光を浴びていることを知り、これだ！と思い、自分もやってみようと思った。

○就農に当たっての課題

祖母の土地があり、軽トラ、水源（井戸）もあり、条件的には恵まれていたので課題はなかった。

○活用した就農支援策等

農業次世代人材投資事業
青年等就農資金



就農してから

○取組

土壌問題を抱えていて、まだ出荷出来るイチゴを育てられる段階にはないが、現在ある2棟のハウスの他に、もう3棟を建設する予定である。

○課題

現在は自宅前にある2棟のハウスでいちごの栽培をしているが、初年度からいちごがうまく育たないため原因を探っている。県民局の普及指導員の方や農業試験場、出荷組合の先輩に相談して意見を伺ったり、水質検査を行い、自分でも文献を調べる等して、土壌に原因があるのではないかといいところまで来た。萎黄色病ではないかと考えていて、土壌を消毒することを検討している。このような状況で、他にいちごを始めた人たちと比べると、かなり遅れを取っているので焦りを感じている。

○課題の解決方法

土壌にはクロルピクリンの使用を考えているが、劇物指定されていて、多量に吸入すると呼吸困難や肺水腫を起こすこともあり、命の危険もあるため使用にあたっては十分な注意が必要。時間はかかるが、ひとつひとつ原因だと思われるものを潰していき、原因を究明していくことが大事。そうすることで僅かではあるが希望の光が見えてくるし、少しずつ物事が前進していると感じる。

就農を考えている皆様へ

自分は型にはまらないことを意識している。色んなことを色んな人が言うが、良い意見も悪い意見もあると思うので、自分なりによく考えたうえで、他の人に言われたことを鵜呑みにしないで、信念を持って農業に取り組んで欲しい。努力を怠らなければ必ずいつかは実を結ぶ。ただひたすら「がんばる」のではなく「どうがんばるか」を考えて仕事をする事で自分自身も成長すると思うし、効率良く仕事が回ると思う。

経営基盤をしっかり作り、次のステップへ

(R2.8.31取材)

小田桐拓也さん（27歳）（弘前市）

H30.5 親元就農

- 出身地…青森県弘前市
- 経営形態…家族経営体（農業従事者1名）
- 経営面積…60a（りんご50a、もも10a）
- 作付品目…りんご（つがる、王林、サンふじ、シナノゴールド）
桃（川中島、あかつき）



就農するまで

○きっかけ

関東で仕事をしていましたが馴染めず、実家に帰ろうと考えた。その際、地元に戻っても仕事はないと思い、実家で自ら農業をやろうと25歳の時に就農した。

○就農に当たっての課題

桃の苗木購入等初期投資に30万円ほどかった。
農業次世代人材投資事業を活用して工面したが、
就農時にはある程度の資金が必要である。



○活用した就農支援策等

農業次世代人材投資事業

就農してから

○取組

就農に当たって、りんご園地60aを父親から譲り受けた。
経営のリスク分散が必要と考え、うち10aに、りんごの収穫
時期前に収穫を終える桃を作付けした。



○課題

この地区は傾斜地が多いため作業効率が悪く、農業者の高齢化が進む中で作業の安全性が不安。また、規模拡大を目指すに従業員の雇用が必要になること。さらに農業機械の老朽化が進み、更新に係る費用が今後、増加することが見込まれる。

このほか、りんごの高密植栽培を手掛けたいが、10a当たり300本以上の苗木を使う。果樹経営支援対策事業として、国の予算で改植の場合53万円、新植の場合52万円（いずれも10a当たり）の支援があるが、それを活用したとしても経費負担は大きい。

○課題の解決方法

傾斜地での作付から平地へ農地を求めて面積を増やせば、作業効率のアップに加えて、高齢者作業のリスクが軽減できる。また、規模拡大を進める場合に、従業員の通年雇用も考えて冬場の農業を取組むための検討をしていく。さらに、農業機械に係る費用の増加等に備え、栽培技術の習得を進め、収穫量を増やしていくことや、補助事業を活用するなど、経営基盤をしっかりしたものになるよう取り組んでいきたい。

なお、りんごの高密植栽培の苗木経費については、農家の経費負担軽減のために行政の支援を拡充していただきたい。

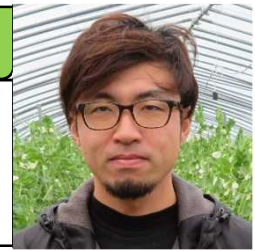
就農を考えている皆様へ

就農してから最大5年間は農業次世代人材投資事業を使えるがそれ以降はない。就農をしてさまざまな費用がかかることを実感している。そのため、この5年間にしっかりとした経営を行うための準備や経験を積むことが必要と感じている。

斉藤圭太さん（37歳）（五所川原市）

H28.3 親元就農

- 出身地・・・青森県五所川原市
- 経営形態・・・家族経営体（農業従事者1名）
- 経営面積・・・30a（ハウス6棟と露地を含む）
- 作付品目・・・花き（輪菊、スプレー菊）、スナップエンドウ



就農するまで

○きっかけ

関東の会社に10年務めていたが、都会の環境に馴染めず、実家に戻り空いている土地で何か出来ないかと考え、実家周辺の花き生産者と情報交換しているうちに、花き生産に魅力を感じ就農することとした。

○就農に当たっての課題

土地やトラクター等は親のものを使用しているが、ハウス資材等に250万円の初期投資が必要だったが、中古のビニールハウスを購入し、自分で設置をしたことで、初期投資をだいぶ押さえることが出来た。



○活用した就農支援策等

農業次世代人材投資事業
青年等就農資金

就農してから

○取組

現在の面積は、中古ハウスを購入し自分で設置したハウス6棟（各7×30m）と、露地を合わせて30aに輪菊とスプレー菊を生産し、後作の一部にスナップエンドウを栽培している。
販売先は、JAごしょつがる及び庭先で無人販売をしている。



○課題

五所川原市内の花き生産者の元で1年間の研修を受けたが、実際に自分1人でやってみると、栽培方法について分からないことが多い。
将来的には規模拡大をしたいが、これ以上面積を増やす場合は1人での作業は無理なので、従業員の雇用を考えなくてはならない。

○課題の解決方法

栽培方法等に悩んだ時は、先輩生産者方の集まりに足を運び、アドバイスを受けている。農協青年部では、未来を担う若手農業者が、地域貢献や農協事業の推進、部員同士の親睦を行っている。生産する作物が異なっても、こうした場に参加することで、地域の人達と交流を深めながら悩みを相談している。

就農を考えている皆様へ

就農する前から、自分が必要とする情報をいかに集められるか。
作りたい作物を作付けしている先輩生産者や、農協青年部等との繋がりを持つ中で、自分の話を聞いてくれる相談相手を見つられるか、見つけるには自分が何をしたら良いか考えて行動することが重要である。

郷里の担い手となって農地を守る

(R2.9.15取材)

岩谷 大祐さん(41歳) (深浦町)

H29.9 親元就農

- 出身地…青森県深浦町
- 経営形態…家族経営体(農業従事者1名)
- 経営面積…1.06ha
- 作付品目…水稻1ha(つがるロマン)、インゲン6a



就農するまで

- きっかけ
会社勤めをしながら親の農業を手伝っていたが、親の高齢化に伴い作業従事割合が多くなったこと。また、親が元気なうちに栽培技術を継承したかったことから就農を決めた。
- 就農に当たっての課題
周りに同じ作物を作付けしている農家がない事で、栽培ノウハウも無かったため、栽培できる作物を選定するのにかなりの時間を要した。
- 活用した就農支援策等
農業次世代人材投資事業
新規就農者営農支援事業(JA)



就農してから

- 取組
主食用米はJAとの出荷契約分の出荷となるが、縁故米として手元に置く量も多い。インゲンは全量JA出荷である。いずれ親の所有する2haの水田や、トマト(ハウス栽培)作付も担うこととなる。地域の高齢農家から、条件の悪い圃場(通路なし、不形成、湿田)の作付依頼があり、自身を含め少数農家で出来る範囲の水田を作付けしている状況である。
- 課題
所有している水田は区画整理されておらず不形成。1圃場当たり10~20a程度であるほか、道路に直結していない圃場もあり、作業効率が悪い。町に区画整理をお願いしているが進んでいない状況である。また、地域の農家が高齢化しており、除草や水路の泥上げが行き届いていない。
- 課題の解決方法
農地として維持管理するには、不形成・条件不利地であっても除草や用水路の泥上げが必要。自分たちの農作業時間を確保するため、アルバイトを雇用して維持管理していく。また、水田の区画整理は継続してほしいし、用排水・農機搬出入の条件が整っている圃場で水稻を作付けし、作業条件の整わない圃場は、水稻以外への作物転換を進めていく。

就農を考えている皆様へ

就農して経営が安定するまでは失敗はつきものである。失敗から得られるものもあるので、失敗したことに落胆することなく農業を「継続」していった欲しい。

私は、繁忙期になると毎日朝5時から、遅い時には夜9時まで作業して休みは、ほぼ無い。だからといって、現状を投げ出して他の収入を得られるのか、家族を守れるのかと考えると、農業で頑張っていかなければいけないと思うし、何よりも生まれ育った土地で農業を続けていくことで、代々受け継いできた農地を守っていきたい。

農業で始める自分時間

(R2.11.17取材)

福山 明子さん（45歳）（新郷村）

R1.9 親元就農

- 出身地…青森県新郷村
- 経営形態…家族経営体（農業従事者1名）
- 経営面積…50a（ピーマン10a、スナップエンドウ10a、りんご30a）
- 作付品目…ピーマン、スナップエンドウ、りんご（ジョナゴールド、王林、北斗、ふじ）



就農するまで

○きっかけ

11年間介護職員として働いていたが、家事や育児との両立が難しく、自由に使える時間が全くなかったこと。また、両親が高齢で農業を断念すると聞き、農地や農機具が無駄になってしまうと思い、農業であれば家事や育児に時間を有効に使えると考え就農した。

○就農に当たっての課題

新たな作物に挑戦することが要件となっているため、作物選定には不安があった。

○活用した就農支援策等

農業次世代人材投資事業
JA八戸農産物新規作付者支援事業
全農野菜新規作付者支援事業
野菜等産地力強化支援事業（青森県）



就農してから

○取組

就農1年目は、ピーマン、2年目からは新たにスナップエンドウを増やし、全量JAに出荷。りんごはマルコ青果市場（五戸町）へ出荷。

3年目となる来年は、ピーマン、きゅうりの夏場の需要が高いことから、露地栽培のほかにビニールハウス（借り上げ3棟、新築中1棟）での生産を予定している。



○課題

収穫時期は夫、母親及び叔母に手伝ってもらっているが、ビニールハウスでの生産拡大分を考えると、収穫期は1～2名の雇用が必要と考える。

りんごは、約15km離れた五戸町の青果市場へ出荷しているが、市場への出荷が日時指定されていることから、それに合わせて収穫作業をしなくてはならないうえに、農作業を一時中断することとなるため、出荷に係る時間と労力が惜しい。

○課題の解決方法

収穫期の雇用については、JA八戸の農作業無料相談窓口にご相談し、地域で就労出来る者を確保したい。りんごは市場への出荷に時間と労力がかかるので、家の庭先に無人販売を設置するなどして、市場出荷の回数を少しでも減らしたいと考えている。

就農を考えている皆様へ

きっかけは何であれ、本気で農業で生活をしていこうという人に就農して欲しい。

若い人は、短期間で結果が出ないからといって、毎年作物を変えて、その結果、経営が安定しないから農業では食べていけないと考える者が多いと思う。覚悟を持って取り組んでいただきたい。

たざわ農園 田澤一月さん（48歳）（弘前市） H29.2 新規参入

- 出身地・・・東京都江東区
- 経営形態・・・家族経営体（農業従事者2名）
- 経営面積・・・りんご94a
- 作付品目・・・りんご（ふじ、おいらせ、王林、シナノゴールド、つがる等）



就農するまで

- きっかけ
自衛隊から民間企業を経てりんご農家へ転身した。地元のハンタークラブに所属しているが、このグループに所属している人たちにはりんご農家の方が多く、彼らが生き生きしているのを目の当たりにしてりんごの世界に興味を持つようになる。
その後、りんご農家に実すぐりの手伝いに行ったのを機にりんごの魅力に惹かれ、農業の道に足を踏み入れることになった。
- 就農に当たっての課題
ゼロからのスタートだったため、土地、軽トラ、農薬、資材等の初期投資が必要であったこと。
- 活用した就農支援策等
農業次世代人材投資事業、青年等就農資金
経営体育成強化資金



就農してから

- 取組
将来的には規模拡大していきたいが、新たに農地を探す必要があり、今の状況を維持することで精一杯。目標としては、無袋栽培でおいしいりんご作りを目指している。
- 課題
借入れをしているので資金面で不安がある。妻はパートで働いているが、週末には農園を手伝ってもらうこともある。私も閑散期である冬場は、近くの工場で3ヶ月ほど働いて収入を得ている。一方で、りんごの栽培に関しては、農協の職員の皆さんがフォローしてくれるし、まわりが先生だらけということもあり、どんなことでも丁寧に教えてもらえるため、あまり心配はしていない。
- 課題の解決方法
収入減少については、収入保険への加入でカバーしている。農作物を育てることだけが全てではなく、地域社会に積極的に参画をして地域の人たちとの交流を深め、信頼関係を構築して行くことにより、りんごに関する課題もおおのずと解決出来る。旧相馬村はそのような環境にある。旧相馬村が独特なのかも知れないが、りんごを中心として地域のコミュニティが確立されていると感じる。

就農を考えている皆様へ

農業はそんなに甘くない。単にやってみたいという気持ちだけでは続かないので、事前によく調べて勉強すること。特にその地域のことを知らない場合、その土地に根を下ろしてからでは解決出来ない問題もあるので、役場や農協に足を運んで情報収集をして欲しい。このような準備をしても、農業を行う上ではいろいろな壁に当たる。

子供と夢を育てる農業女子

(R2.8.26取材)

宮崎季子さん（42歳）（階上町）

R2.3 新規参入

- 出身地…青森県十和田市
- 経営形態…家族経営体（農業従事者1名）
- 経営面積…8a（ハウス4棟）
- 作付品目…ミニトマト（キャロル10、プチぷよ）



就農するまで

○きっかけ

元々、農業高校で実習助手をしていたということもあるが、子供という時間を多く作りたいかったため、あまり家から離れずに出来る仕事は何かと考えた時、前職での経験を活かして、自宅周辺に農地を持ち、そこで農産物を作って販売で得た収入で生活していけば良いと思い就農した。

○就農に当たっての課題

住居に農地が隣接した場所であれば管理もしやすいと考えたが、条件に合う住居や農地を見つけるのに苦労した。

また、ゼロからの就農だったので、農業資材等の準備には支援事業だけでは足りず自己資金も必要だった。



○活用した就農支援策等

農業次世代人材投資事業

就農してから

○取組

現在は、ミニトマトを生産するハウスが3棟、育苗ハウスが1棟。

8割をJAに出荷、残りを道の駅等で販売している。地域スーパーへの営業により、産直コーナーの売り棚を確保できた。試行錯誤の末、青トマトを使用したジャムを作って販売している。また、規模拡大が進んだら観光農園もやってみたいと考えている。

○課題

一人で、育苗、植付、収穫を行っているので、収穫時期は人手が足りない。

階上町にJAの営農指導部が無く、且つ、JAのミニトマト栽培指導員が八戸市（約30キロ離れた）にいたため、頻繁に園地に来ていただくことが出来ない。わからないことがあれば電話で照会をしている。

○課題の解決方法

規模拡大も考えれば、最低1～2名の通年雇用による労働力の確保が必要。

JAの指導員のほか、県民局農業普及振興室へも栽培指導を仰いだり、同じ作物を生産する農家との交流・情報交換を行う。

就農を考えている皆様へ

就農はゼロから始めると、時間も経費も掛かるので事前の情報収集や準備が必要である。それでも、自分の求めるものが何かを考え、知らない土地に根を下ろし、農作物とじっくり向き合うことで、農作物以外にも新しい土地での出会いや体験などを通じて収穫できるモノがあることを知った。

新たな就農に責任は伴うが、自由な生き方は出来る。経営は自分次第なので、マネジメントが出来る人の方が向いていると思う。

田村 大和さん（39歳）（八戸市）

H30.5 新規参入

- 出身地・・・青森県青森市
- 経営形態・・・家族経営体（農業従事者2名）
- 経営面積・・・23a（ピーマン20a、スナップエンドウ3a）
- 作付品目・・・ピーマン、スナップエンドウ、ハトムギ、カワラケツメイ、ハーブ



就農するまで

- きっかけ
社会人になってから、将来は自分で何か事業を起こしたいと考えていた。植物に携わる仕事をしていこうと決め、色々経験してきたが、その中でも農業に惹かれ、自分でやりたい気持ちが強くなり就農を決意した。
- 就農に当たっての課題
親元就農ではないことや、夫婦ともに農業経験も少ないため、「何処で何を作るか」という事を最初に悩んだ。
それをある程度決めた後、住む家や農地の確保、農機具購入に係る準備、それら全ての資金繰り、そして栽培品目の選定、技術の習得など、全てが課題であった。
- 活用した就農支援策等
農業次世代人材投資事業、青年等就農資金、新規作付助成金（JA）



就農してから

- 取組
目標となる「農業で生計を立てていくこと」から、移住した地域で推進されている品目を調べた結果、初期投資も比較的少なくて済み、取り組みやすいピーマンを選んだ。
また、自分たちの経験や個性を生かそうと、お茶やハーブ類の無農薬栽培に取り組み、農閑期にはそれらの加工品販売にも力を入れている。
- 課題
普段は夫婦二人で栽培管理をしており、収穫時期にはパートを複数名雇用しているが、農繁期には管理が追いつかなくなる。また、霜、風、雨などの自然の力により思いも寄らない失敗（被害）が毎年ある。
- 課題の解決方法
栽培管理が追いつかなくなる農繁期は、雇用人数を増やすためJAの無料職業紹介窓口に相談するなどの対応をとる。
気象条件などによる被害は、地域の先輩農家さんと情報交換したり、JAの職員、県民局農業普及振興室から栽培指導を積極的に受け、被害軽減に取り組む。



就農を考えている皆様へ

農業を仕事にしていく事は容易な事ではないと思いましたが、周りからも「農業は大変だ。」とよく言われました。しかし、どんな職業であれ、一人前にやっていくことは大変なことだし、農業だけが特段大変な仕事だとは思いません。農業に興味があれば、是非、一歩踏み出してみてください。目の前に課題がたくさん見えてくと思いますが、やりたいことであれば情熱をもって進んでいけるはずです。

好きであることは原動力である

(R2.11.24取材)

田中 幸輝さん（31歳）（八戸市）

H30.11 新規参入

- 出身地…青森県八戸市
- 経営形態…家族経営体（農業従事者1名）
- 経営面積…6a
- 作付品目…いちご（紅ほっぺ、さちのか）



就農するまで

○きっかけ

子供の頃、祖母が作るいちごハウスでよく遊んでいた。社会人になって青森市内に勤務したが、地元八戸市に転勤になり、祖母に会いに行った際に幼少期の記憶が蘇り、それがとても懐かしく心地よく思えて、安易かもしれないが自分もいちごの栽培をしたいと思って就農した。

○就農に当たっての課題

祖母がいたこと。また、就農前に青森県営農大学校で新規就農チャレンジ研修を1年、いちご農家で実地研修を半年勉強させていただいたので大きな不安はなかった。

○活用した就農支援策等

農業次世代人材投資事業



就農してから

○取組

現在、6a（ビニールハウス3棟）で販売用のいちごを栽培、これとは別棟ハウスで新株を育てている。

○課題

一人で農作業していると、ハウスのビニール張り替え等、どうしても人手のいる時がある。しかしながら、その時だけ来てくれる人はなかなかいない。

また、農業資材が高騰する一方で、いちごの価格は上がらないので設備投資が出来ない。トラクターも高く買うことが出来ず、叔母から借りているため、自分のやりたい時に作業をすることが出来ない。

○課題の解決方法

どうしても一人で作業がままならない時は、祖母と叔母に手伝ってもらい、本当に助かっている。また、今は自分が作業出来る範囲で作付をしているが、経験値を上げて、もっと栽培技術を向上させて作付面積を拡大したい。



就農を考えている皆様へ

今、振り返ってみても、自分はやっぱりいちごを栽培することが好きなんだと思う。自分で育てたいちごを販売することにとっても魅力を感じている。農業に限らず、何でもそうだが、好きであることは原動力になる。勿論、好きだけで成功するかと言えば、そうではない。ただやりたいだけ、好きなだけでは旨くはいかない。何をしたいのかにもよるが、とにかくお金がかかるので、事前に準備を怠らず、いざ始めようという時に困ることのないように万全を期してもらいたい。

上沢洋貴さん（29歳）（田子町）

H31.1 親元就農



- 出身地…青森県田子町
- 経営形態…家族経営体（農業従事者1名）
- 経営面積…14a（ニンニク10a スナップエンドウ4a）
- 作付品目…ニンニク、スナップエンドウ

就農するまで

- きっかけ
青森県営農大学校を卒業後、父の勧めもありNOSAI青森に勤めていたが、やっぱり自分には身体を動かして働く方が合っていると感じ、26才の時に就農した。

- 就農に当たっての課題
農地・農機具は親元就農だったことで初期投資は抑えることができたが、栽培する作物を選定する際、自分の知識で本当に育つのか、とても不安があった。



- 活用した就農支援策等
農業次世代人材投資事業

就農してから

- 取組
ニンニクもスナップエンドウも収穫時は一人では人手が足りない時は、友人に手伝ってもらっている。ニンニクの規模拡大には種子の確保が必要となるが、購入量に制限があるため、今年産までは次年産用種子の量産を行っていたが、来年産からは販売分に力を入れたい。

スナップエンドウは全量JA出荷している。今年産は昨年より面積を1a増やしていたが、雹による被害のため商品として販売できる出荷量が減少した。



- 課題
今後、親からの農地承継を考えるにあたり、引き継いだ農地でニンニクを1ha程度まで規模拡大したいと考えているが、種子の植付けや掘取り収穫作業に係る労働力不足を考えなければならない。

しかし、農作業は短期間・短時間で労働力が必要となることが多く、不規則な雇用に応じてくれる人はなかなか見つからない。また、農業をやったことがない者だと、作業を覚えてもらうまで時間がかかるので、経験者が望ましい。

- 課題の解決方法
青森県内のJAには、無料職業紹介窓口が設置されており、今回のコロナ禍により休業を余儀なくされた農業以外の異種業者と農家のマッチングを行う等、農業の雇用条件が反映された仕組みとなっているので、最寄りのJAに相談してみたい。

就農を考えている皆様へ

自分は営農大学校を卒業後に就農を考えていたところ、父親の勧めもあり一度は別の仕事に就いたが、自分はやっぱり農業が好きで、農業で生計を立てていく決意で就農した。地域に定着し、良いときも悪いときも農業と向き合って生きていかなければならない。

高橋直樹さん（45歳）（つがる市）

H30.5 新規参入

- 出身地…青森県つがる市
- 経営形態…家族経営体（農業従事者2名）
- 経営面積…1.45ha（ブロッコリー1ha ネギ45a）
- 作付品目…ブロッコリー、ネギ



就農するまで

○きっかけ

高校卒業後、飲食業を含め20回程転職をしたが、地元の友人に誘われたこともあるが、農業は自分の裁量で経営する魅力から「農業で食っていこう」と就農した。

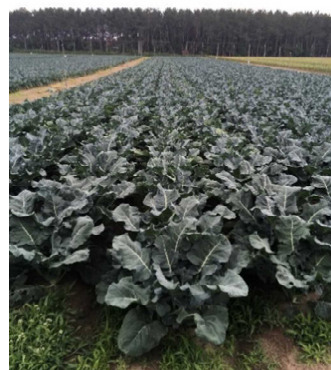
就農してみて感じたのは、飲食業に勤めた際に培った「気配り」が農作業の段取りや栽培計画に活かされており、これまでの経験が自分の農業の礎となっている。

○就農に当たっての課題

新規参入だったことで、住居や農地の取得に時間を要した。特に農地は、ブロッコリーの栽培に適した農地を探していたこともあり、隣市で見つけられたのは幸いしている。

○活用した就農支援策等

農業次世代人材投資事業



就農してから

○取組

夫婦2人での経営である。R2の経営規模は、ブロッコリー1ha、ネギ45aで、どちらも全量JA出荷している。

今後、5haまで規模拡大（ブロッコリー2ha、ネギ3haをローテーション）を考えている。

○課題

ブロッコリーの植付けには人手がいるので、規模拡大した際は植付け時には3名の労働力が必要。

地域には新規就農者やベテラン農家もいるが、秘匿体質なのか、地域の野菜の単収や、病害虫の発生対処等、栽培に係る正確な情報が得られない。

○課題の解決方法

ブロッコリーの植付けに、R2は1名を雇用したが、規模拡大時に向け労働力確保のため、自家消費農業者や離農した農業者の情報収集を行っている。

地域とは付き合い程度としている。今はネット社会ということもあり、そこで繋がった知人から栽培に関する情報等を聞いたり、現地に足を運び、情報収集を精力的に行っている。



就農を考えている皆様へ

農業で生計を立てていくのであれば、作付品目、作付規模、経営形態等、それに資金も重要であり、自分で考えて取り組まなければならない。他人のマネ事で出来るものではない。自分は常に考え、工夫して、行動している。農業は体力勝負だけでなく、ブレない気持ちが必要。

ご協力いただいた新規就農者の方々の耕作地域



編集後記

「青森県内における新規就農者の取組」をご覧いただきありがとうございます。この取組は、東北農政局青森県拠点の職員が、農業の現場に直接お邪魔して、新規就農者の皆様から伺った生の声を取りまとめたものです。

農業をはじめたい人向けに、新規就農を支援する各種施策、就農までのみちすじ、農業体験などを紹介しているパンフレットは、参考になるものがたくさんありますので、少し視点を変えて、これから就農してみようかな？就農を考えています！という人向けに、ご覧いただけるような取組を意識して作成してみました。

取材にあたり、少しでも、これから就農をしようとしている人たちの参考になるようにと考え、新規就農者の皆様には、苦労話を中心にお話を伺わせていただいたところです。お答えしにくい点もあったと思いますがお許し下さい。

また、お忙しい中、取材にご協力いただいた新規就農者の皆様をはじめ、新規就農者をご紹介いただいた関係者の皆様、大変ありがとうございました。紙面をお借りして心より御礼申し上げます。

取組の中で、就農を考えている皆様へ向けたアドバイスは、新規就農者が自らの経験を基に話をされていますので、一人一人の言葉に重みがあります。このような声に耳を傾け、就農に向けての第一歩を踏み出すための参考にしていただければ幸いです。

東北農政局青森県拠点では、農業現場の生の声を聞き、いろいろな取組を幅広く皆様にご紹介していきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

スタッフ一同



編集発行：東北農政局青森県拠点

電 話：017-775-2151

F A X：017-723-3840

〒030-0861 青森県青森市長島一丁目3-25

（青森法務総合庁舎4階）

問い合わせ先 地方参事官室 藤館、大谷、相馬、大坂